

北村兼子 きたむら かねこ 評論家。明治二十六年十一月二十七日大阪市北區天満生れ、昭和六年七月二十六日歿（一九三二）。漢學者北村佳逸の長女。筆名千葉秋子。梅田高等女學校を経て、大正十二年大阪外國語學校別科英語科卒。同年關西大學第一學年を修了して同大法科在學の儘、翌年「大阪朝日新聞」社會部記者となる。次で處女著作「ひび」(大正十五年一月五日改善社)を刊行、賣行き良く版を重ねた。また神戸、福岡の歡樂街に潜入取材、その體驗記「戀の潜航」(大正十五年十月十日改善社)も著はす。昭和二年大阪朝日新聞社を退き、その心境を記した「婦人記者廢業記」(昭和二年刊)を出版。

三年第一回汎太平洋婦人會議出席のため、井上秀子(團長)、吉岡瀨生、市川房枝、ガントレット恒子等と共にホノルルに赴く。翌年「婦人毎日新聞」論說部長となり、五月には萬國婦人參政權大會出席のためベルリンへ出發、翌月の委員會及び本會議では英語とドイツ語で演説。歐米を経て九月歸國。五年婦人文化講演會講師として臺灣へ講演旅行、歸朝後「新臺灣行進曲」(昭和五年四月十六日婦人毎日新聞臺灣支局)を書いた。暮は三川の日本飛行學校に入り、翌年飛行士免許取得直後、盲腸炎から腹膜炎を起し急逝した。

著書は他に「女浪人行進曲」(昭和四年一月十五日婦人毎日新聞社)、「情熱的論理」(昭和四年四月二十五日平凡社)、「表皮は動く」(昭和五年一月一日平凡社)、遺著「大空に飛ぶ」(昭和六年十月十五日



改善社)等。大谷渡著「北村兼子―炎のジャーナリスト」(平成十一年十二月二十日東方出版「おおや」)が人物評伝がある。